

去る10月1日、アクロス福岡7階ホールにて、VISION PITCH 2022の本選が行われました。多数の観客の前でピッチを披露したのは40人の応募者（A部門26人、B部門14人）から書類選考を勝ち抜いた11人（A部門6人、B部門5人）です。ピッチは3分間でその後に5分間、審査員からの質問に答えます。審査員には産官学でご活躍の以下の6名の方々をお迎えしました。

諸藤 周平 様	REAPRA グループ Founder & CEO
澤田 昌典 様	株式会社ヘリオス 執行役副社長 CMO
前田 真 様	産学連携機構九州 代表取締役社長, 地域戦略推進協議会 事務局次長
木下 寛子 様	九州大学 大学院 人間環境学研究院 准教授
三谷 泰浩 様	九州大学 大学院 工学研究院 教授
高橋 幸奈 様	九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所 准教授

審査においては6人の委員がそれぞれ、以下の2つの観点を踏まえ上位3人を順位付けしました。これを得点化した後、6人の評点を集計して最終的な順位を決定しました。

- 1) 自らの研究計画を適切にプレゼンテーションできているか。また、発表についての質問に適切に答えられているか。
- 2) 研究計画が実現した場合、社会へ与えるインパクトが大きいと考えられるか。

まず第一部ではB部門の5人が順に登壇しました。5人の内訳は学部4年生1人、M1が3人、M2が1人でした。いずれの発表者も、研究に取り組んだ期間は短いながらも、3分間のプレゼンで簡潔に、且つ、魅力的に自身の研究テーマの面白さや社会的な意義を的確に伝えており、素晴らしい出来でした。審査委員からの多様な質問に対する応答も非常にスムーズで、総じて説得力のあるものでした。

続いて第二部では、博士課程の学生6人が登壇しました。第一部の登壇者に比べて、研究に取り組んだ経験が長く、自身の研究の難しさや立ち位置をよく理解しているが故か、専門外の人に分かりやすく伝えるための戦略には6人中でかなりバリエーションがあった様に見受けられました。自分のテーマの具体的な内容はそぎ落とし、専門分野の特徴や面白さ、期待される社会貢献にフォーカスした発表、高度な研究内容を出来る限り平易な語彙で説明しようという苦心が感じられる発表など、ファイナリストそれぞれに個性があり、スライドと喋りの両方に工夫がこらされていました。

最終的に、それぞれの部門について審査員6人の評価を集計し、1位から3位までの計6人が表彰されました。きっと、ファイナリストの皆さんは、書類審査後の約1ヶ月間、この日のために入念に準備して臨んでくれたものと思います。受賞しなかった人も含め、ファイナリスト11人のピッチはいずれも、研究の面白さや魅力、研究への熱い思いが力強くアピールされた素晴らしいものでした。このVISION PITCH 2022により得た経験や友人を大事にして、今後も楽しく、前向きに研究に邁進して欲しいと思います。

最後に、本イベントの実施に当たり協力頂きました関係各位に厚く御礼申し上げますとともに、今後とも本学の学生や教員の様々な活動に対し、引き続きご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

Table 1. Finalists of Division A (doctoral students)

Award	Name	School	Grade	Title
-	Laras Putri WIGATI	生物資源 (Biorec.)	D3	Development of Value-added Biscuits Produced from Edible Waste (Reduce Food Waste of Bananas using a 3D Food Printer)
-	山下 啓介/ Keisuke YAMASHITA	シス生命 (SLS)	D3	カプトガニが人類を細菌汚染から救う ～世界一の細菌検出薬開発を目指して～ (Horseshoe crabs save humankind from bacterial contamination - Towards the development of the world's best bacteria-detecting drug.)
1 <sup>st</sup>	北島千朔/ Chisaki KITAJIMA	人環 (Human Env.)	D1	The biomimetics for architectural design
-	Joram NTIYAKUNZE	芸工 (Design)	D3	Reconstruction of 3D model of building
2 <sup>nd</sup>	工藤 三希子/ Mikiko KUDO	シス生命 (SLS)	D3	新規分子 Akhirin は胎児の脳を細菌感染から守るバリアとして働く (The novel molecule Akhirin acts as a barrier to protect the foetal brain from bacterial infection.)
3 <sup>rd</sup>	BASIRI HAMID	総理工 (IGSES)	D3	An essential upgrade to the cosmic-ray muon-based cargo inspection systems

Table 2. Finalists of Division B (master and B4 students)

Award	Name	学府	Grade	Title (Translated title from Japanese)
-	五十川 浩希/ Hiroki ISOGAWA	総理工 (IGSES)	M2	核融合炉用トリチウム生産に向けた革新的トリチウム閉じ込め技術の開発 (Innovative tritium confinement technology for the production of tritium for fusion reactors.)
-	進藤慎人/ Makito SHINDO	共創学部 (Interdis. Sci. Innov.)	B4	キャメロンコガネコバチを用いた畜産害虫サシバエの生物的防除法の確立 (Biological control of the livestock pest sow fly using the Cameron's cockscomb bee)
3 <sup>rd</sup>	浅見昂志/ Koushi ASAMI	地球社会 (Integrated Sci.)	M1	マイクロCTを使った昆虫標本の3Dデジタル化とNFTによるオープンソース化 (3D digitisation of insect specimens using micro-CT and open-sourcing supported by NFT)
1 <sup>st</sup>	坂本一馬/ Kazuma SAKAMOTO	生物資源 (Biores.)	M1	昆虫食をデザインする ～食用昆虫・カイコの新規食肉としての社会実装～ (Designing entomophagy - Social implementation of edible insects and silkworms as novel meat)
2 <sup>nd</sup>	吉富小都/ Sato YOSHIDOMI	医学系 (Medical Sci)	M1	Semaphorin (SEMA)をターゲットとした新規「痛み」治療薬の開発 (Development of a novel 'pain' treatment targeting Semaphorin (SEMA))

発表順に並べています。日本語で応募された研究課題の英語への翻訳は参考のため事務局が行ったものです。

The finalists are sorted by the order of their pitch. Translations into English of research proposals submitted in Japanese have been provided by the organizing committee only for reference.